

リヤ・ブレーキ

- リヤ・ブレーキ・キャリパにはマニュアル・リトラクティング機構を採用し、ブレーキ・パッド交換時のSSTを不要にしました。
- オート・アジャスタ機構を採用し、ブレーキ・パッドすり間調整を自動的に行っています。

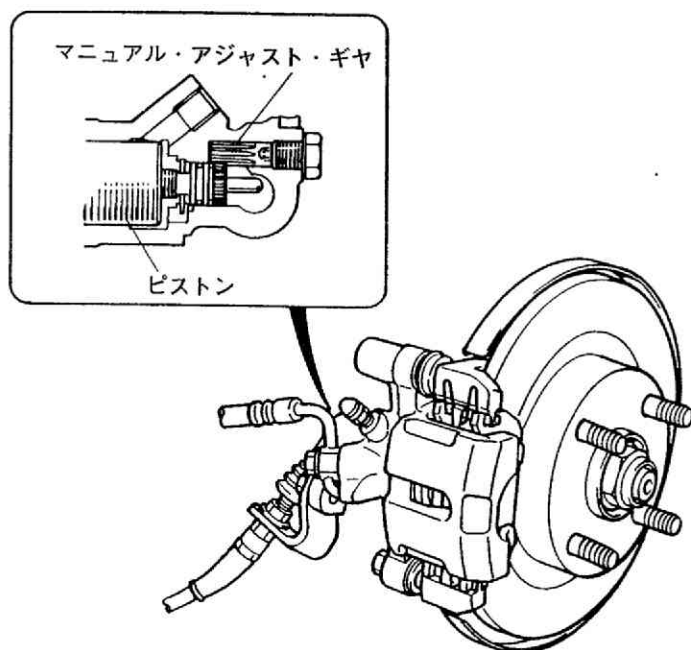
マニュアル・リトラクティング機構

ブレーキ・パッド取外し

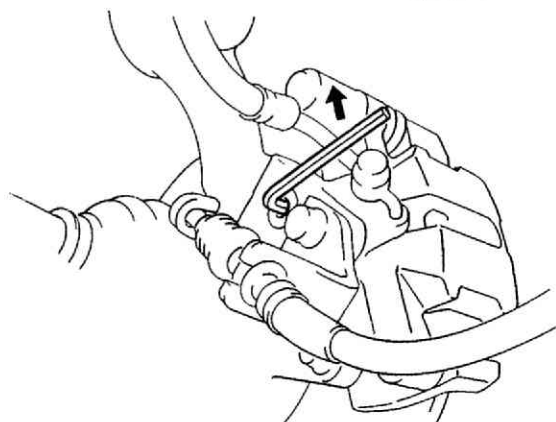
- 六角レンチでマニュアル・アジャスト・ギヤを反時計方向に回して、ブレーキ・キャリパ・ピストンを引き戻し、ブレーキ・パッドを取外します。

ブレーキ・パッド取付け

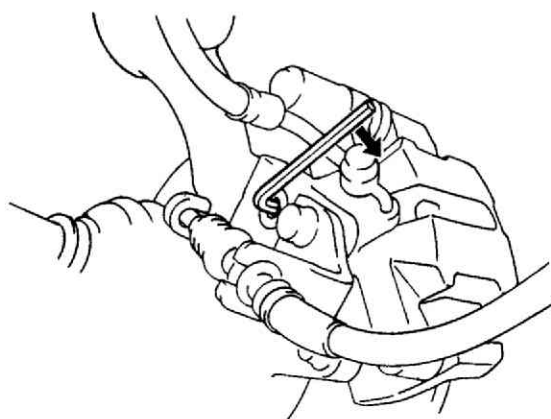
- ブレーキ・パッドがディスク・プレートに当たるまでマニュアル・アジャスト・ギヤを時計方向に回した後、1/3回転戻します。



ブレーキ・キャリパ・ピストン引き戻し



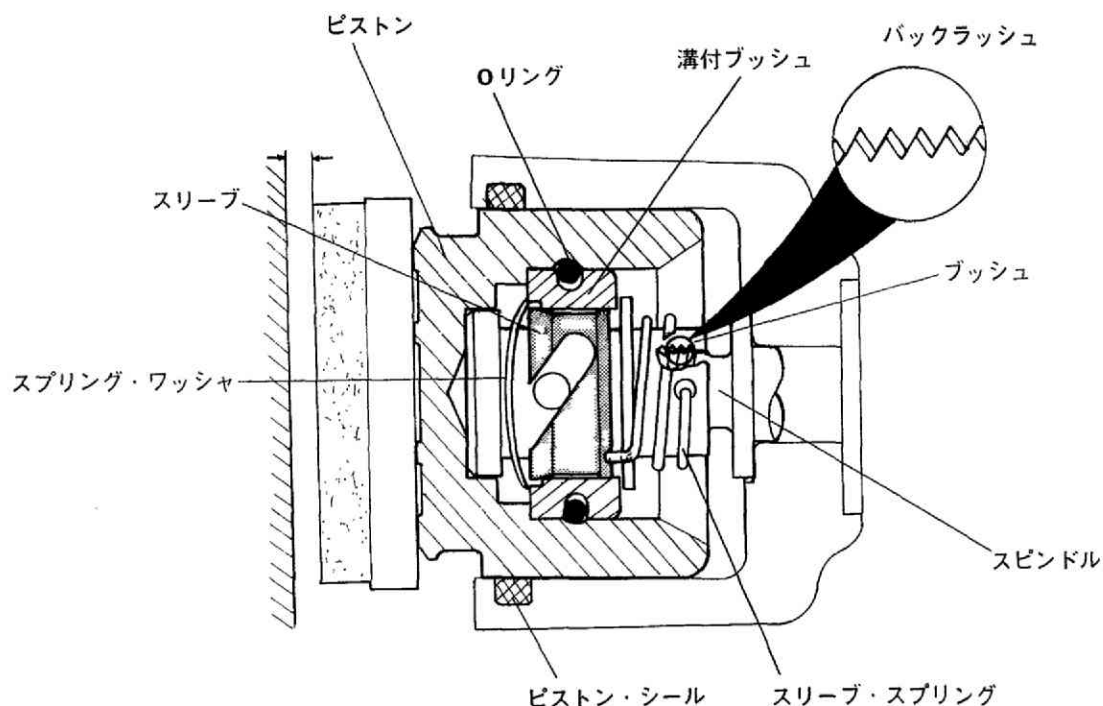
ブレーキ・パッド調整



オート・アジャスタ機構

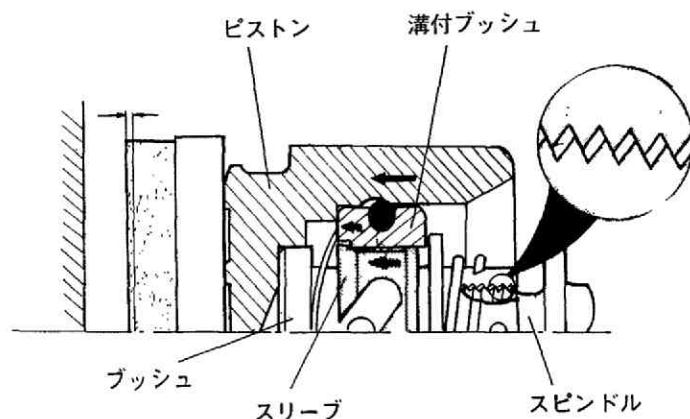
1. ブレーキ非作動時（静止状態）

- ピストン・シールのロールバック作用によって、ピストンとブッシュは引き戻され、ブッシュのねじ面はスピンドルのねじ面に当接しています。スリーブはスリーブ・スプリングの捩りトルクを受けた状態でコーン面で溝付ブッシュと摩擦接触しています。この時、軸方向の遊びは、ねじ部のバックラッシュ（L）のみです。



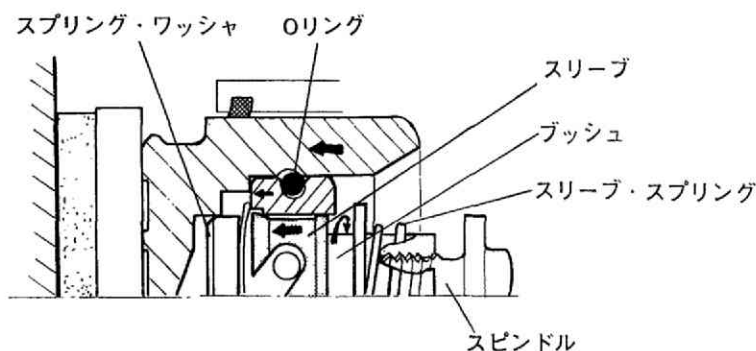
2. ブレーキ圧加圧開始時

- 液圧が加わると、ピストンはディスク側へ移動し始め、溝付ブッシュ、スリーブ、ブッシュも一体となってバックラッシュ分だけピストンと共に前方へ移動します。



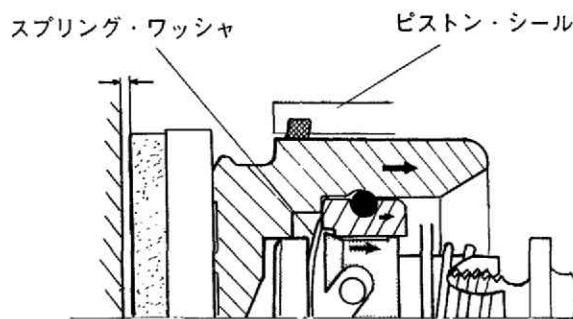
3. ブレーキ圧加圧時

- さらに液圧が加わり、ピストンがストロークすると溝付ブッシュとスリーブはOリングを介して前方へ動かされます。スプリング・ワッシャは溝付ブッシュに押されてたわみ、ブッシュはピストンから離れます。この時、スリーブはコーン面の摩擦により回転しませんが、スリーブの傾斜溝上に、ブッシュのピンが設定してあるためブッシュはねじがゆるむ方向に回転します。また、スリーブ・スプリングのセット荷重はブッシュの回転により増加しています。



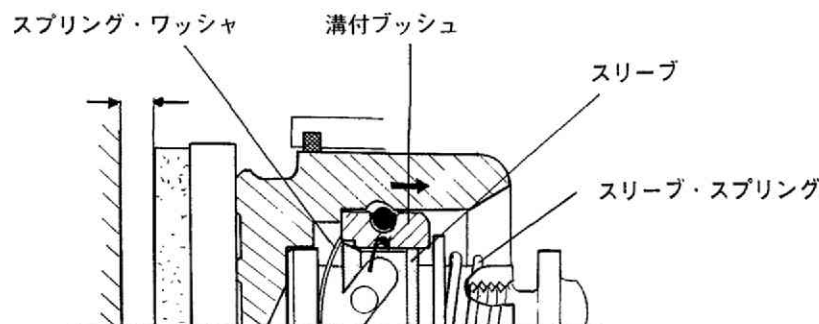
4. ブレーキ圧解放開始時

- ピストン・シールのロールバック作用とスプリング・ワッシャにより、ピストンはディスクから引き戻されます。この時、コーン面の摩擦トルクは減少します。



5. ブレーキ圧完全解放時

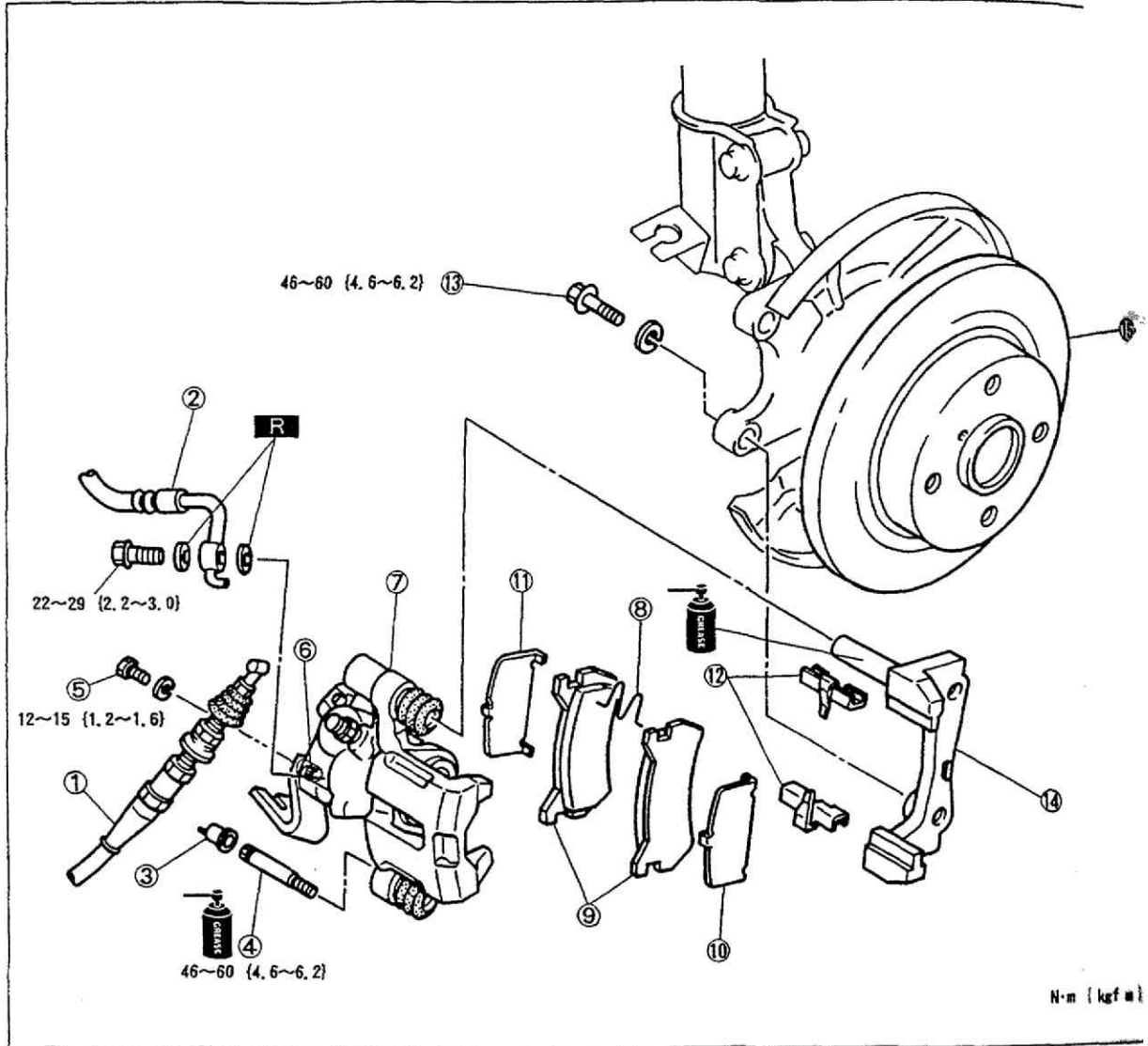
- ピストンはスプリング・ワッシャによりブッシュの端面に接触するまで戻ります。この時、スリーブと溝付ブッシュとの摩擦はなくなり、スリーブはスリーブ・スプリングにより回転し再び溝付ブッシュに当接して止まります。ブッシュとスリーブの相対位置関係は常に調整開始時点（1. ブレーキ非作動時の状態）にセットされます。



ブレーキ装置

取外し／点検／取付け

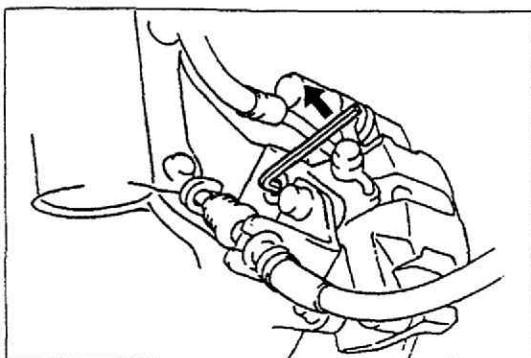
- 取付け後、ブレーキ・ペダルを数回踏み込み、引きずりがないことを点検する。



1. パーキング・ブレーキ・ケーブル
2. ブレーキ・ホース
3. キャップ
4. ロック・ボルト
5. プラグ
6. マニュアル・アジャスト・ギヤ
取外し時の留意点……p. P - 24
取付け時の留意点……p. P - 25

7. キャリパ
分解／点検／組付け……p. P - 26
8. スプリング
9. ディスク・パッド
点検………p. P - 19
表面硬化、接触不良がないか点検する

10. アウタ・シム
11. インナ・シム
12. ガイド・プレート
13. ロック・ボルト
14. マウンティング サポート
15. ディスク・プレート



取外し時の留意点

マニュアル・アジャスト・ギヤ

六角レンチを使用して、マニュアル・アジャスト・ギヤを反時計方向に回し、ピストンを引き戻す。

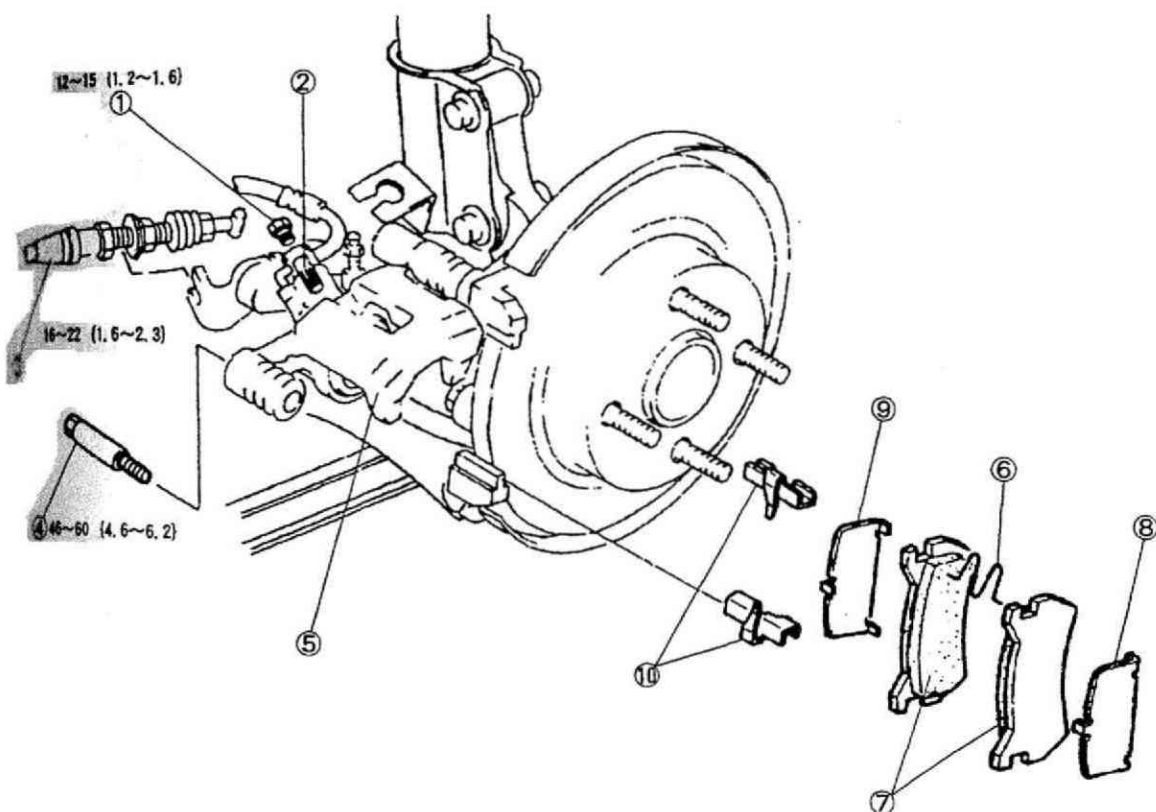


取付け時の留意点

マニュアル・アジャスト・ギヤ

1. 六角レンチを使用してディスク・パッドがディスク・プレートに軽く触れるまで、マニュアル・アジャスト・ギヤを時計方向に回す。
2. マニュアル・アジャスト・ギヤを反時計方向に1/3回転戻す。

ディスク・パッド (リヤ)



N·m [kgf·m]

5. キャリパ

6. スプリング

7. ディスク・パッド

点検.....p. P-23

8. アウタ・シム

9. インナ・シム

10. ガイド・プレート

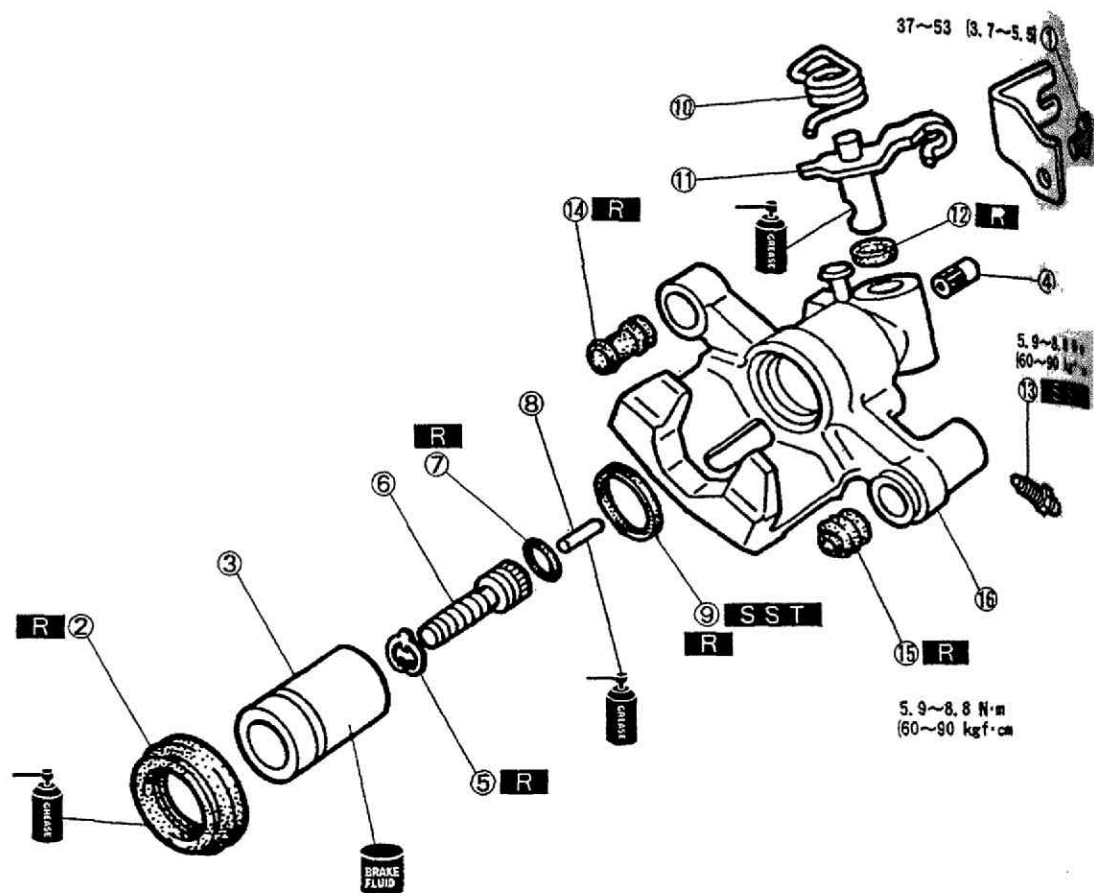
マニュアル・アジャスト・ギヤ
取付け時の留意点.....p. P-24
点検.....p. P-25
ケーブル

ブレーキ装置

キャリパ (リヤ)

分解/点検/組付け

• ピストン及びキャリパ・ボデーに不具合がある場合は、キャリパ・アッセンブリで交換する。

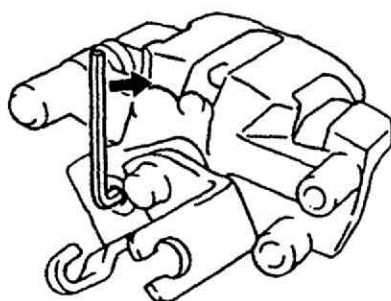


- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. ボルト | 6. アジャスト・ボルト | 13. ラバー・キャップ |
| 2. ダスト・シール | 7. Oリング | リュ |
| 3. ピストン | 8. コネクティング・リンク | 14. ブーツ |
| 分解時の留意点……p. P-26 | 9. ピストン・シール | 15. ブーツ |
| 組付け時の留意点……p. P-27 | 分解時の留意点……p. P-27 | 16. キャリパ・ボデー |
| 摩耗、錆がないか点検する | 10. スプリング | |
| 4. マニュアル・アジャスト・ギヤ | 11. オペレーティング・レバー | |
| 5. スナップ・リング | 12. ブーツ | |

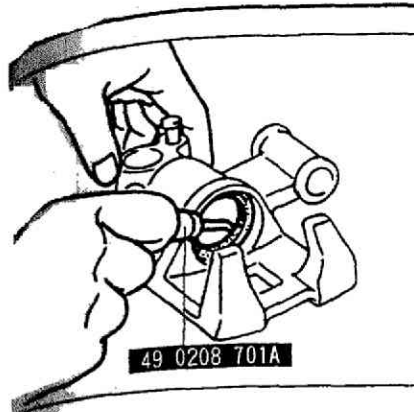
分解時の留意点

ピストン

六角レンチを使用して、マニュアル・アジャスト・ギヤを時計方向に回し、ピストンを引き出す。マニュアル・アジャスト・ギヤが簡単に回るようになるまで回す。

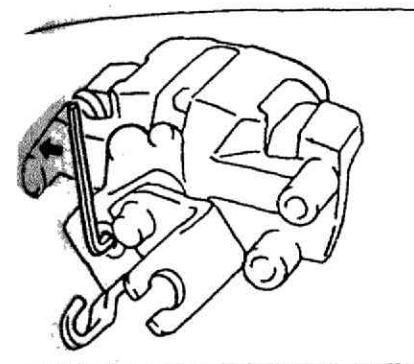


ブレーキ装置



ピストン・シール

SSTを使用して、キャリパ・ボデーからピストン・シールを取外す。

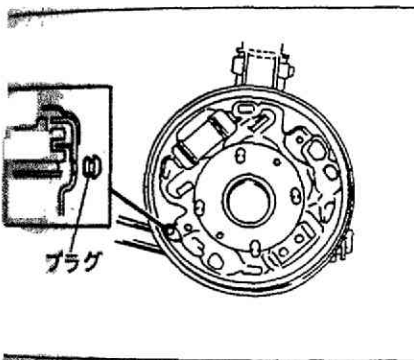


組付け時の留意点

ピストン

ピストンをキャリパ・ボデー内に挿入し、六角レンチを使用して、マニュアル・アジャスト・ギヤを反時計方向に回し、ピストンを充分引き込む。

(マニュアル・アジャスト・ギヤが停止するまで回す。)



リヤ・ブレーキ（ドラム）

点検（車上）

ブレーキ・ライニング

1. 図示位置のプラグを取外し、点検穴よりブレーキ・ライニングの厚さを点検する。

標準値 4.0 mm

限度値 1.0 mm

2. 限度値以下の場合は、ブレーキ・シューを交換する。

(参照：p. P-28)